

# 「旧三菱重工業熊本航空機製作所第一組立工場等の市民見学会」資料



□日 時 令和8（2026）年6月14日（日曜日） ※小雨決行  
12時30分：開場 13時：開会 15時30分頃：閉会・解散  
所要時間：約150分間

□場 所 陸上自衛隊健軍駐屯地  
熊本市東区東町1丁目1-1 096-368-5111

□受付・集合場所 陸上自衛隊健軍駐屯地内 広報館「鎮西館」  
※正門から入場、右側平屋建物

□主 催 くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク  
戦争遺跡保存全国ネットワーク

□共 催 荒尾二造市民の会 菊池飛行場を未来に伝える会  
合志の近代遺産を学ぶ会 肥後考古学会  
一般社団法人 くまもと戦争と平和のミュージアム設立準備会

□後 援 熊本県 熊本県教育委員会 熊本市

## 見学会日程及びタイムスケジュール案

### □全体進行

……くまもと戦跡ネット 末永 崇

- 1 開会 挨拶、趣旨説明、見学での留意事項 広報館「鎮西館」 13:00～13:10  
……くまもと戦跡ネット 戸寄 孝行・本田 涼子・高谷 和生

### □陸自健軍駐屯地「マイクロバス・二台」での支処棟への移動

- 2 講話 13:20～13:50 ※第一組立工場北側前で、各10分間程度講話  
①健軍駐屯地の沿革と旧第一組立工場の変遷、利用 ……陸上自衛隊健軍駐屯地広報担当者様

- ②熊本の航空機産業概要及び熊本航空機製作所概要、第一組立工場概要  
……くまもと戦跡ネット 高谷 和生

- ③三菱熊本製作所一次疎開工場、二次疎開地下工場、関連の戦時資料  
……荒尾二造市民の会 福田 一郎

### 3 見学等

- ④「旧三菱熊本航空機製作所第一組立工場」見学 13:50～14:30 ※旧工場内部で説明

- ④-① 第一組立工場の軍設計施設としての建築的特徴、耐震  
……崇城大学工学部建築学科 野村 直樹

- ④-② 熊本市内近現代遺跡出土の軍遺構・遺物等 ～発掘調査で出土したM69焼夷弾、市内の  
掩体壕、防空壕～  
……肥後考古学会 師富 国博

- ⑤義烈空挺隊慰霊碑 14:40～15:00 ※現地見学時で説明

- ⑤-① 義烈空挺隊慰霊碑 ……陸上自衛隊健軍駐屯地広報担当者様

- ⑤-② 健軍（熊本）飛行場と義烈空挺隊 ……菊池飛行場を未来に伝える会 勝又 俊一

- ⑤-③ 三菱熊本製作所及び健軍（熊本）飛行場への空襲と被害  
……くまもと戦跡ネット 高谷 和生

- ⑥自衛隊殉職者慰霊碑 15:10～15:15  
……陸上自衛隊健軍駐屯地広報担当者様

- 4 閉会 広報館「鎮西館」 15:25～15:30 ……くまもと戦跡ネット（肥後考古学会）  
陸上自衛隊健軍駐屯地広報担当者様





### ③三菱熊本製作所一次疎開工場、二次疎開地下工場、関連の戦時資料

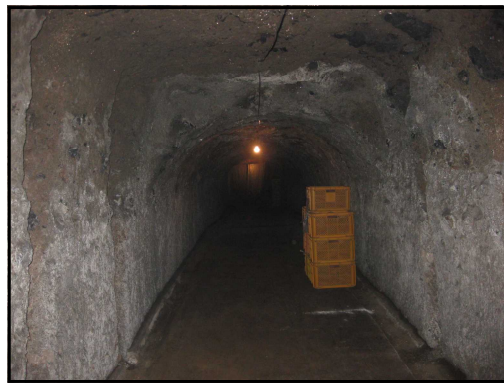
…荒尾二造市民の会 福田 一郎

#### 1 県内に広がる「一次・二次疎開工場」

- 軍需省による昭和20年2月23日工場緊急疎開要綱を受け、一方では健軍本工場への3月18日空襲により19人が死傷するにいたり、熊本航空機製作所でもいよいよ4月1日から学校工場・倉庫等への一次疎開を開始する。当時疎開本部で業務にあたった唐木文穂は「監督官と桜井京造部長が熊本師団に行き、疎開の応援を頼むことになった。その結果、四月の初め、三日間に亘り熊本師団から兵隊二千名、戦車、輜重車などの応援を得ることになった。この他消防団、五高の生徒などの応援を得て、工場にある機械設備、材料など殆ど全部疎開先に運び出され、工場はもぬけの殻となってしまった」と当時を回想している。また、熊航内の工場疎開計画委員会で疎開計画の担当者は「その日から蟻の引越しのような異状な疎開作業が昼夜兼行で実施されました。勿論二日間というには無茶ですが、正味七日間で無事に全工場をすっきり空けてしまう事だけは出来ました」とある。
- この時期から始まった熊航第一次疎開は「相応の条件を考慮し健軍工場を中心に、熊本市内、大津、菊池、木葉、宇土、隈庄、御船の各地区を中核とし、それぞれの地区の工場、学校、倉庫の既存建物を利用し生産部門ごとにその拠点を移した」ものである。熊本地区を例にとると、熊本航空機製作所の下請け工場として既に稼働している熊本航空機・田迎航機の空き施設を活用し、五高・熊工専の広域な校舎実習工場施設の利用、さらには上熊本のゲンゼ製糸工場跡の再利用、市内中央部から東部にある中学校・高等女学校八校の体育館・講堂・雨天体操場の利用である。このように地域ごとに生産品を出来るだけ集約し相互に関連づけ、学校工場（県内23校）を主体としながら、既存航空機工場（8箇所）や実働工場（4箇所）の空き空間、遊休倉庫（3箇所）利用を客体とした。

#### 2 二次疎開「三菱龍田弓削地下工場」

- 空襲激化に伴い45年6月頃から始まった二次疎開として半地下・地下工場が「県央・県北地区に7～12箇所」が造営された。全容は判明しないが、ここでは記録化された「龍田弓削工場」を記す。
- 本地下工場は、熊本市龍田町弓削に所在する。『健軍三菱回顧史』の「報国熊第1011工場 第二次疎開工場計画概要 昭和20年6月26日作成」では、「供合・小峯」の名称で作業内容「組立・整備」と記載がある。また、別資料『現代史資料39 太平洋戦争5』「米軍戦略爆撃調査団報国書 第15巻 航空機工場」には「下南部」の名称があり、面積は「計画14,200㎡ 実際1,900㎡」、従業員は「計画250人 実際無」の記載がある。三菱疎開工場の地下工場の幾つかの工場は、掲載されている資料により名称記載が異なる場合もある。ここでは両地点が隣接することから同一名称とも考えられるが、証言等からも工場名に特定できないが「龍田弓削工場」と呼称する。



□三菱「龍田弓削工場」の通路部様子

- 県内では荒尾市「東京第二陸軍造兵廠荒尾製造所」では、旧玉名中学校、旧高瀬高等女学校等からの動員が知られている。
- また、長崎県大村市「第二十一海軍航空廠」では、1944年10月25日B29空襲により旧宇土中学校・旧御船中学校動員学徒の悲劇が知られている。

#### 3 関連の戦時資料

- 熊本博物館をはじめ、三菱熊本航空機製作所関係の史資料、航空機資料、遺品・遺物等のまとまった収集は、なされていない。

工場名	所在地	生産品	疎開先		備考
			工場	倉庫	
大津上	大津上	航空機機体	同	同	
大津下	大津下	航空機機体	同	同	
大津中	大津中	航空機機体	同	同	
大津小	大津小	航空機機体	同	同	
大津工	大津工	航空機機体	同	同	
大津校	大津校	航空機機体	同	同	
大津高	大津高	航空機機体	同	同	
大津女	大津女	航空機機体	同	同	
大津中	大津中	航空機機体	同	同	
大津小	大津小	航空機機体	同	同	
大津工	大津工	航空機機体	同	同	
大津校	大津校	航空機機体	同	同	
大津高	大津高	航空機機体	同	同	
大津女	大津女	航空機機体	同	同	
大津中	大津中	航空機機体	同	同	
大津小	大津小	航空機機体	同	同	
大津工	大津工	航空機機体	同	同	
大津校	大津校	航空機機体	同	同	
大津高	大津高	航空機機体	同	同	
大津女	大津女	航空機機体	同	同	
大津中	大津中	航空機機体	同	同	
大津小	大津小	航空機機体	同	同	
大津工	大津工	航空機機体	同	同	
大津校	大津校	航空機機体	同	同	
大津高	大津高	航空機機体	同	同	
大津女	大津女	航空機機体	同	同	
大津中	大津中	航空機機体	同	同	
大津小	大津小	航空機機体	同	同	
大津工	大津工	航空機機体	同	同	
大津校	大津校	航空機機体	同	同	
大津高	大津高	航空機機体	同	同	
大津女	大津女	航空機機体	同	同	
大津中	大津中	航空機機体	同	同	
大津小	大津小	航空機機体	同	同	
大津工	大津工	航空機機体	同	同	
大津校	大津校	航空機機体	同	同	
大津高	大津高	航空機機体	同	同	
大津女	大津女	航空機機体	同	同	
大津中	大津中	航空機機体	同	同	
大津小	大津小	航空機機体	同	同	
大津工	大津工	航空機機体	同	同	
大津校	大津校	航空機機体	同	同	
大津高	大津高	航空機機体	同	同	
大津女	大津女	航空機機体	同	同	
大津中	大津中	航空機機体	同	同	
大津小	大津小	航空機機体	同	同	
大津工	大津工	航空機機体	同	同	
大津校	大津校	航空機機体	同	同	
大津高	大津高	航空機機体	同	同	
大津女	大津女	航空機機体	同	同	
大津中	大津中	航空機機体	同	同	
大津小	大津小	航空機機体	同	同	
大津工	大津工	航空機機体	同	同	
大津校	大津校	航空機機体	同	同	
大津高	大津高	航空機機体	同	同	
大津女	大津女	航空機機体	同	同	
大津中	大津中	航空機機体	同	同	
大津小	大津小	航空機機体	同	同	
大津工	大津工	航空機機体	同	同	
大津校	大津校	航空機機体	同	同	
大津高	大津高	航空機機体	同	同	
大津女	大津女	航空機機体	同	同	
大津中	大津中	航空機機体	同	同	
大津小	大津小	航空機機体	同	同	
大津工	大津工	航空機機体	同	同	
大津校	大津校	航空機機体	同	同	
大津高	大津高	航空機機体	同	同	
大津女	大津女	航空機機体	同	同	
大津中	大津中	航空機機体	同	同	
大津小	大津小	航空機機体	同	同	
大津工	大津工	航空機機体	同	同	
大津校	大津校	航空機機体	同	同	
大津高	大津高	航空機機体	同	同	
大津女	大津女	航空機機体	同	同	
大津中	大津中	航空機機体	同	同	
大津小	大津小	航空機機体	同	同	
大津工	大津工	航空機機体	同	同	
大津校	大津校	航空機機体	同	同	
大津高	大津高	航空機機体	同	同	
大津女	大津女	航空機機体	同	同	
大津中	大津中	航空機機体	同	同	
大津小	大津小	航空機機体	同	同	
大津工	大津工	航空機機体	同	同	
大津校	大津校	航空機機体	同	同	
大津高	大津高	航空機機体	同	同	
大津女	大津女	航空機機体	同	同	
大津中	大津中	航空機機体	同	同	
大津小	大津小	航空機機体	同	同	
大津工	大津工	航空機機体	同	同	
大津校	大津校	航空機機体	同	同	
大津高	大津高	航空機機体	同	同	
大津女	大津女	航空機機体	同	同	
大津中	大津中	航空機機体	同	同	
大津小	大津小	航空機機体	同	同	
大津工	大津工	航空機機体	同	同	
大津校	大津校	航空機機体	同	同	
大津高	大津高	航空機機体	同	同	
大津女	大津女	航空機機体	同	同	
大津中	大津中	航空機機体	同	同	
大津小	大津小	航空機機体	同	同	
大津工	大津工	航空機機体	同	同	
大津校	大津校	航空機機体	同	同	
大津高	大津高	航空機機体	同	同	
大津女	大津女	航空機機体	同	同	
大津中	大津中	航空機機体	同	同	
大津小	大津小	航空機機体	同	同	
大津工	大津工	航空機機体	同	同	
大津校	大津校	航空機機体	同	同	
大津高	大津高	航空機機体	同	同	
大津女	大津女	航空機機体	同	同	
大津中	大津中	航空機機体	同	同	
大津小	大津小	航空機機体	同	同	
大津工	大津工	航空機機体	同	同	
大津校	大津校	航空機機体	同	同	
大津高	大津高	航空機機体	同	同	
大津女	大津女	航空機機体	同	同	
大津中	大津中	航空機機体	同	同	
大津小	大津小	航空機機体	同	同	
大津工	大津工	航空機機体	同	同	
大津校	大津校	航空機機体	同	同	
大津高	大津高	航空機機体	同	同	
大津女	大津女	航空機機体	同	同	
大津中	大津中	航空機機体	同	同	
大津小	大津小	航空機機体	同	同	
大津工	大津工	航空機機体	同	同	
大津校	大津校	航空機機体	同	同	
大津高	大津高	航空機機体	同	同	
大津女	大津女	航空機機体	同	同	
大津中	大津中	航空機機体	同	同	
大津小	大津小	航空機機体	同	同	
大津工	大津工	航空機機体	同	同	
大津校	大津校	航空機機体	同	同	
大津高	大津高	航空機機体	同	同	
大津女	大津女	航空機機体	同	同	
大津中	大津中	航空機機体	同	同	
大津小	大津小	航空機機体	同	同	
大津工	大津工	航空機機体	同	同	
大津校	大津校	航空機機体	同	同	
大津高	大津高	航空機機体	同	同	
大津女	大津女	航空機機体	同	同	
大津中	大津中	航空機機体	同	同	
大津小	大津小	航空機機体	同	同	
大津工	大津工	航空機機体	同	同	
大津校	大津校	航空機機体	同	同	
大津高	大津高	航空機機体	同	同	
大津女	大津女	航空機機体	同	同	
大津中	大津中	航空機機体	同	同	
大津小	大津小	航空機機体	同	同	
大津工	大津工	航空機機体	同	同	
大津校	大津校	航空機機体	同	同	
大津高	大津高	航空機機体	同	同	
大津女	大津女	航空機機体	同	同	
大津中	大津中	航空機機体	同	同	
大津小	大津小	航空機機体	同	同	
大津工	大津工	航空機機体	同	同	
大津校	大津校	航空機機体	同	同	
大津高	大津高	航空機機体	同	同	
大津女	大津女	航空機機体	同	同	
大津中	大津中	航空機機体	同	同	
大津小	大津小	航空機機体	同	同	
大津工	大津工	航空機機体	同	同	
大津校	大津校	航空機機体	同	同	
大津高	大津高	航空機機体	同	同	
大津女	大津女	航空機機体	同	同	
大津中	大津中	航空機機体	同	同	
大津小	大津小	航空機機体	同	同	
大津工	大津工	航空機機体	同	同	
大津校	大津校	航空機機体	同	同	
大津高	大津高	航空機機体	同	同	
大津女	大津女	航空機機体	同	同	
大津中	大津中	航空機機体	同	同	
大津小	大津小	航空機機体	同	同	
大津工	大津工	航空機機体	同	同	
大津校	大津校	航空機機体	同	同	
大津高	大津高	航空機機体	同	同	
大津女	大津女	航空機機体	同	同	
大津中	大津中	航空機機体	同	同	
大津小	大津小	航空機機体	同	同	
大津工	大津工	航空機機体	同	同	
大津校	大津校	航空機機体	同	同	
大津高	大津高	航空機機体	同	同	
大津女	大津女	航空機機体	同	同	
大津中	大津中	航空機機体	同	同	
大津小	大津小	航空機機体	同	同	
大津工	大津工	航空機機体	同	同	
大津校	大津校	航空機機体	同	同	
大津高	大津高	航空機機体	同	同	
大津女	大津女	航空機機体	同	同	
大津中	大津中	航空機機体	同	同	
大津小	大津小	航空機機体	同	同	
大津工	大津工	航空機機体	同	同	
大津校	大津校	航空機機体	同	同	
大津高	大津高	航空機機体	同	同	
大津女	大津女	航空機機体	同	同	
大津中	大津中	航空機機体	同	同	
大津小	大津小	航空機機体	同	同	
大津工	大津工	航空機機体	同	同	
大津校	大津校	航空機機体	同	同	
大津高	大津高	航空機機体	同	同	
大津女					

## Ⅱ 見 学 等 ※現地見学時で説明

### ④「旧三菱熊本航空機製作所第一組立工場」見学

13:50～14:30

#### 1 第一組立工場の概要と歴史的価値

……くまもと戦跡ネット 高谷 和生

- 本工場で生産された「飛龍」は、当時の日本の大型機としては初めての試みとして胴体部を分割式にした量産志向の機体であった。生産においては作業工程の分割・並行化、作業の近寄性の増大、組立治具の単純化、作業の機械化等が図られた。通称「大東亜戦争決戦機」の組立工場である。
- 「第一組立工場」では、建屋中央の柱の左右2系列で最大6機が同時に組立られていたとされる。建屋は「桁行き223.2m、梁行き92.5m、全高約9.6m」と想定され、「床面積は19,440㎡」を測り、飛行場出口側に面した北側鉄扉10枚と附帯施設は当時のままであり、採光のための三角の連続屋根24連と連結したトラス鉄骨が特徴的な鉄骨建物である。熊本県内軍需工場で、三角連続屋根鉄骨建物では唯一現存とされる。
- 1956（昭和31）年7月建物の改修工事がなされ、梁側への出入口等が設置され、現在は、駐屯地車両の整備等が行われる「健軍支処棟」として利用。なお、本工場に関する「三菱側図面類」は残されていないとされ、「空襲時の弾痕等もある」とされるが、現地調査が実施されておらず未確認である。

#### ④-① 第一組立工場の軍設計施設としての建築的特徴、耐震

……崇城大学工学部 建築学科 野村 直樹

#### 1 外観でわかること

- のこぎり屋根の頂部を繋ぐ部材（つなぎ材）が見られる。
- のこぎり屋根の建物でつなぎ材がある建物は見たことがなく、Googleマップで見える限り、本建物にはほとんどの位置でこの材料が見受けられる。ただし、部分的にこの部材のない箇所が見られる。つなぎ材が多く設けられていることから、何らかの構造的な意味があると考えられる。
- のこぎり屋根の開口部が垂直に立っており、かつ断面の小さい材料で構成されている。このため、風荷重などが作用した際に風のあたる面のみが抵抗するのではなく、建物の全体に力を伝達できるようにしているのではないかと推察する。

#### 2 建物内部でわかること

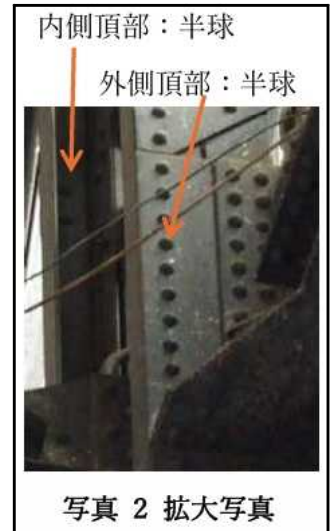
- 写真1は、内部鉄骨の柱梁接合部の状況、写真2は写真1の赤枠部分を拡大したものである。柱部材はL形鋼もしくは溝形鋼を組み合わせて製作されたボックス柱であり、接合にはリベット接合が用いられている。
- 写真2において、内外両側のリベット頭部が半球形を呈していることから、本接合はリベット接合であると判断できる。また歴史的背景として、本建物は1942年（昭和17年）に起工されており、高力ボルト接合が一般に普及した昭和30年代（1955年以降）以前に建設されている。したがって、本建物にはリベット接合が用いられていると考えられる。なお、現在一般に用いられている高力ボルトでは、ボルト頭部およびナツ



写真1 内部鉄骨

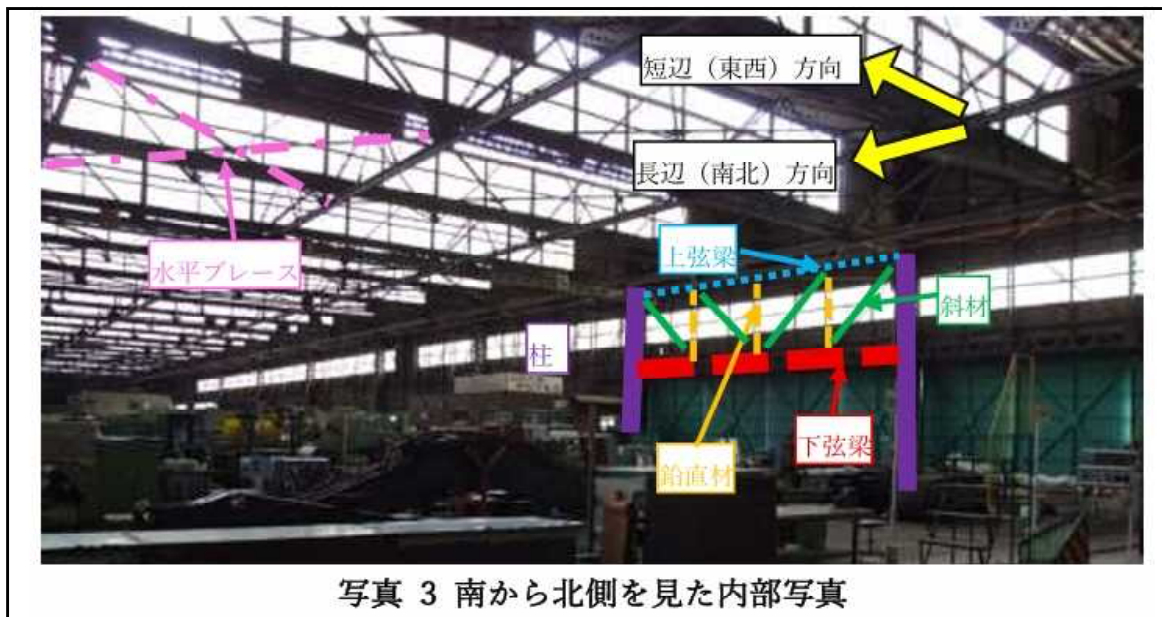
トは六角形状であるものが一般的である。高力ボルトの一種のトルシア型高力ボルトのようにナットが六角形で片側が半球形のものもある。

- 日本においては、官営八幡製鉄所が1901年（明治34年）に操業を開始し、レールなどの鋼材生産が行われていた。また、H形鋼の国内生産が開始されたのは1961年（昭和36年）である。それ以前は、大断面の柱部材を製作する際には、L形鋼などを組み合わせてH形やボックス形状を構成していた。例えば、舞鶴の海軍機関学校（1928～1930年（昭和3～5年））ではI形鋼とL形鋼などが用いられ、築地市場（1935年（昭和10年））もL形鋼や鋼板を組み合わせた部材が使用されていた。
- また、写真1に示す母屋は木造で構成されている。これは戦時中に鋼材が貴重であったため、鋼材使用量の削減を目的として木材が採用されたためと考えられる。さらに、鋼材に比べて軽量の木材を用いることで屋根重量を低減し、地震時の作用力を小さくする意図もあったと推測される。



### 3 写真3について

- 写真3は、建物内の北側を見た写真である。写真が遠く、明確に確認できないが、長辺（南北）方向のフレームは柱と柱の間の梁はトラス梁として作成されている可能性がある。紫色（太い実線）が柱、水色（細い破線）が上弦梁、赤色（太い破線）が下弦梁、オレンジ（垂直の細い破線）が鉛直材、緑（細い実線）が斜材と考える。上弦材が下弦材と比べて断面が小さく構成されているように見える。一般に同断面積で作られると考えるが、なぜ断面を小さくしたか不明である。
- ただ、上弦材付近には平面ブレースがあり、座屈長さを短くしているため、断面を小さくした可能性がある。短辺（東西）方向については、逆光しており、写真だけではどのようなになっているかわからない。ピンク色（一点鎖線）のように平面剛性を高めるために平面ブレースが全面に設けられている



④-② 熊本市内近現代遺跡出土の軍遺構・遺物等  
 ～発掘調査で出土したM69焼夷弾、市内の掩体壕、防空壕～

……肥後考古学会 師富 国博

1 戦争遺構

地表面に残された痕跡…地形改変、防空壕、掩体壕等  
 現在も確認できる地形改変跡

- 誘導路…幅100mにわたって東西より5mほど標高が低い
- 駐屯地正門前付近～山ノ内小学校、松尾神社～佐土原団地まで続く谷地形を埋め立て
- 自衛隊通りにある桜並木=引込線跡



写真1 昭和23年米軍撮影写真に見る掩体壕の跡（長嶺西2丁目）  
 ※掩体壕・・・空襲に備えて戦闘機/爆撃機を飛行場外に隠しておく施設

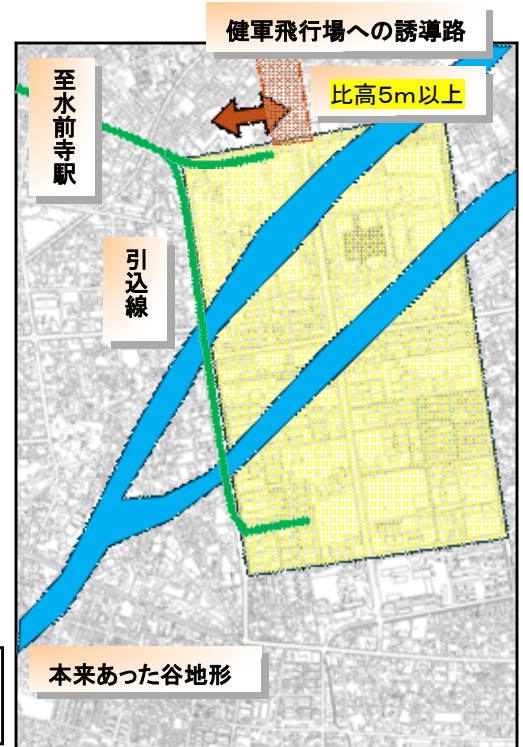


写真2 平成30年 東区戸島町で発見された無蓋掩体壕

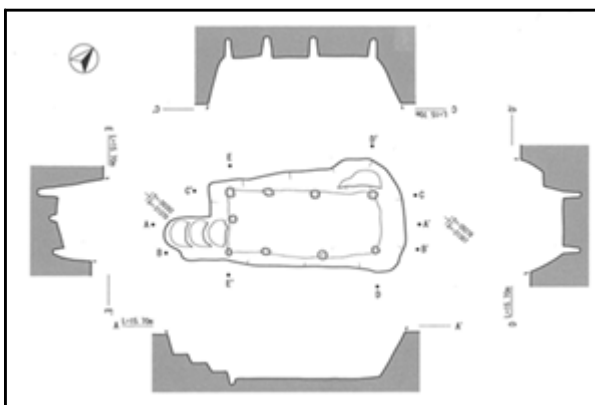


図1 発掘調査で確認された家族用防空壕  
 新屋敷遺跡（熊本県文化課調査）  
 降りるための階段と屋根を支える柱穴

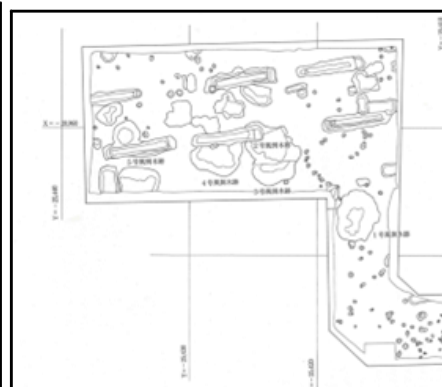


図2 大学の大規模防空壕  
 黒髪町遺跡群（熊本大学調査）  
 細長い防空壕が規則的に並ぶ

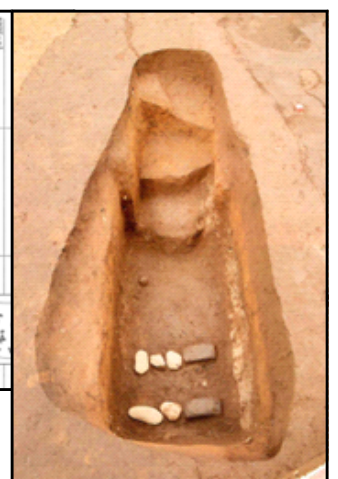


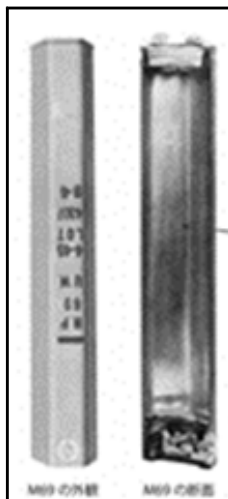
写真3 大江遺跡群防空壕

## 2 戦争遺物

発掘調査によって出土した戦争関連のもの……焼夷弾、不発弾、土坑内出土軍用品・日用品 等



写真4 新南部遺跡群のイモ穴出土の六角焼夷弾「M69焼夷弾」

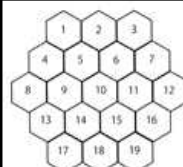


### 六角焼夷弾「M69焼夷弾」

長さ50cm、直径8cm

鉄製の六角筒の中にガソリンと粘性物質を混ぜたものを入れ、19個を束にして2段にまとめ、1発の集束焼夷弾「E46」とする。

投下すると途中でばらけて、着地後筒内の油脂が飛び散る。



▲ E46 (M19) 集束焼夷弾の集束 (左) と外観 (右)  
M69 焼夷弾を19発ずつ2段で合計38発集束している。【米国立公文書館】

写真5 E46集束焼夷弾 全体外観と集束断面



写真7 大江遺跡群出土旧陸軍使用重機関銃連隊跡第125次調査区(歩兵十三連隊跡地)の軍用品廃棄土坑・防空壕から出土

写真6 新屋敷遺跡出土不発弾



発見された不発弾



写真8 二本木遺跡群出土陶製航空兵人形

### 【参考・引用文献】

- ・写真1：国土地理院公開 米軍撮影 USA-M747-63 (1948年1月21日撮影)
- ・新聞：熊本日日新聞(平成24年5月12日朝刊)
- ・写真2：高谷和生2018 平成30年3月27日版『熊本市戸島町で発見された旧健軍飛行場無蓋掩体壕(第3報)』熊本戦跡ネットワーク末永崇氏作成3D測量図
- ・図1：長谷部善一他2016『新屋敷遺跡』6「第4章 調査の成果 9区」熊本県教育委員会(熊本県文化財調査報告第317集)
- ・図2：小畑弘己他2010『熊本大学構内遺跡発掘調査報告VI』「II 黒髪南地区の調査 3. 黒髪団地南地区基幹・現境整備に伴う発掘調査(0102調査地点)」熊本大学埋蔵文化財調査室
- ・写真3：江藤彰子2024『熊本市埋蔵文化財調査年報』第26号「大江遺跡群第165次調査区」熊本市教育委員会
- ・写真4：未報告写真 新南部遺跡群第22次調査区出土 焼夷弾(筆者撮影)
- ・写真5 工藤 洋三2022「アメリカが記録した8月5-6日の前橋空襲」前橋空襲と復興資料館検討委員会資料(元は米国立公文書写真)
- ・写真6 図1と同じ
- ・写真7 熊本市遺跡発掘速報展展示風景 大江遺跡群第125次調査区防空壕出土九八式高射機関砲(市文化財課撮影)
- ・写真8 未報告写真 二本木遺跡群第112次調査区出土(市文化財課撮影)

## ⑤義烈空挺隊慰霊碑

14:40～15:00



### ⑤-① 義烈空挺隊慰霊碑

……陸上自衛隊健軍駐屯地広報担当者様

### ⑤-② 健軍（熊本）飛行場と義烈空挺隊

……菊池飛行場を未来に伝える会 勝又 俊一

## 義烈空挺隊 ～熊本から出撃した特別攻撃隊～

### 1 健軍（熊本）飛行場

陸軍健軍飛行場は現在の熊本市東区長嶺（日赤病院や県立大学付近）にあった。三菱重工業熊本航空機製作所で製作した四式重爆撃機「飛龍」の試験飛行場として昭和18年（1943年）12月に作られ、滑走路は長さ1300m×幅80mあった。昭和20年3月、沖縄作戦のために陸軍重爆撃機の飛行場に転用され、飛行第110戦隊、第60戦隊の出撃基地となり、四式重爆撃機「飛龍」による沖縄付近の米艦隊への爆撃、沖縄地上軍への物資投下を行った。昭和20年5月24日夕刻、この飛行場から沖縄に向かって「義烈空挺隊」が出撃している。



申告をする奥山隊長

### 2. 「義烈空挺隊」の編成 ～B29の本土空襲を阻止せよ！～

昭和19年7月にサイパン島が陥落すると、そこからはB29の日本全土の攻撃が可能になる。そこで飛行場を破壊する作戦が計画された。落下傘部隊である空挺隊から奥山大尉を中心に「義烈空挺隊」が編成される。これに飛行機を操縦する第三独立飛行隊（諏訪部大尉）が加わった。

サイパンへの出撃予定日は昭和19年12月24日だったが作戦準備段階で攻撃は中止となった。次の目標を硫黄島に変えて計画されたが、硫黄島も陥落したため、再び作戦中止となる。再三の出撃中止命令に部隊は失意の中で訓練を続けた。

### 3. 米軍の沖縄上陸 「義号作戦」 ～特攻のための特攻隊～

昭和20年3月末に米軍は沖縄へ上陸を開始、占領した沖縄の飛行場から出撃した米軍機によって多くの特攻機の撃墜されるようになった。そこで、陸海軍共同の特攻作戦「義号作戦」が計画される。「義号作戦」とは、米軍の飛行場に義烈空挺隊が強行着陸し、飛行機や関連施設を破壊、飛行場の機能を停止させ、その間に陸海軍の特攻機が一斉に特攻攻撃をかける作戦である。義烈空挺隊は5月8日には健軍飛行場に移動し、5月17日に命令が下された。



隊員の装備

### 4. 5月24日出撃 ～健軍飛行場から12機が出撃～

昭和20年5月24日夕刻18時40分に義烈空挺隊12機が健軍飛行場から出撃、沖縄まで約3時間半、レーダーを避けるために闇夜の中、海面スレスレを飛行する。機体の故障で4機は帰還したが、5機は北（読谷）飛行場、2機は中（嘉手納）飛行場へ突入した。米軍のすさまじい対空砲火により次々と飛行場到達前に撃墜される中、1機が北飛行場への胴体着陸に成功、飛び出した10名程の隊員は予定通りに戦闘攻撃を開始、周辺の飛行機を破壊、ドラム缶集積所を爆破炎上、ドラム缶約600本のガソリンを焼失させた。飛行場は3日間閉鎖されたが、翌日から沖縄は雨天となり、特攻機が思うように出撃できず作戦は終了となる。この作戦で義烈空挺隊と操縦担当の第3独立飛行隊の合計113名が戦死した。



自分の故郷に向かって礼をする隊員

（画像：平和祈念展示資料館所蔵）

### 5. 戦後 ～慰霊碑の建立～

戦後、健軍飛行場は閉鎖されたが、昭和35年に民間の「熊本空港」として活用され、東京までの定期便も運航された。昭和46年に現在の「阿蘇くまもと空港」に移転されるまで使用された。

故障で帰還した元義烈空挺隊員や元空挺隊員により、昭和40年に健軍飛行場跡地に「義烈空挺隊慰霊碑」が建てられた。飛行場移転後に慰霊碑は、陸上自衛隊健軍駐屯地内に移転、自衛隊により清掃・管理され、毎年、5月に慰霊祭が開催されている。

## ⑤-③ 三菱熊本製作所及び健軍（熊本）飛行場への空襲と被害

……くまもと戦跡ネット 高谷 和生

### 1 熊本（健軍）飛行場との関わり

- 旧熊本飛行場は熊本市東区健軍町・西原町・戸島町・小山町に所在する。健軍飛行場の別称を持つ。当初は三菱重工業株式会社熊本航空機製造所で生産する重爆撃機「飛龍（キ-67）」試験飛行のための飛行場として設営された。
- 昭和19年4月「飛龍第一号機進空式」時には飛行場諸施設も南・西側に完成し、同6月大刀洗陸軍飛行学校熊本教育隊が、飛行場東側に管理区画を設け開校する。その後大刀洗飛行学校の廃校に伴い、実戦部隊の配備も行われ、昭和20年4月、重爆隊の第六十戦隊の配置に伴い機能が更に拡充する。昭和20年5月の義号作戦では、沖縄に向け「義烈空挺隊」の発進が当飛行場から行われた。昭和20年7月、第三十戦闘飛行集団の配当飛行場となり、敗戦時は第六〇戦隊（陸軍重爆隊、その後は百十重爆撃隊と統合し、百七十戦隊に編制替）、第一七独立飛行隊、第五五飛行中隊、第一七四飛行場大隊の配備部隊名が記される。
- 滑走路は、現日本赤十字熊本病院前道路として1500×60m（マカダム舗装）を基盤とし、さらに1500×300・1500×200mの2箇所を設定する。周辺誘導路としては、3000m長が20本設置され、周囲には500名収容の宿舍12棟と軍記録に記されている。
- 飛行場南部隣接の三菱熊本航空機製造所には、義烈空挺隊慰霊碑も陸自施設内に移転されている。また、第六十戦隊の墜落機慰霊碑が天津町外牧畑、西原村宮山の2箇所に建立されている。

### 2 3月・5月の米艦載機空襲、7月1日第一回熊本大空襲、8月10日第二回熊本大空襲

- 1945（昭和20）年3月18日、熊本県内各地では米海軍空母艦載機による空襲を受けた。これは、沖縄戦の前哨戦としての九州各地陸海軍航空基地と周辺部への攻撃であった。
- この旧三菱重工業熊本航空機製作所の初空襲は、本工場の熊本市内・県央・県北等の学校・倉庫等への「一次疎開」を、さらに「第二次疎開」としての地下・半地下工場への移転へと進んだ。
- その後、4月以降での沖縄作戦支援の一貫としての5月10日のB29二機による陸軍飛行場への戦術爆撃、13日～15日米艦載機による「特攻機発進基地の陸海軍飛行場」へとつながる。
- 国内の中小都市空襲の一環として、熊本への空襲準備を整えた第73飛行団は、7月1日深夜の「第一回熊本大空襲」としてマリアナ基地群を飛び立ち天草・宇土半島を経て、熊本市上空に達した。154機のB29が、1107.2トンもの焼夷弾を2時間かけて投下。市街地の三分の一が焦土と化し、約1万戸が罹災し、市街地住民約4万人が家を失った。
- さらに、8月10日昼間の「第2回熊本大空襲」では、沖縄の極東航空軍による陸軍機による九州本土上陸（オリンピック作戦）に向けての前哨戦が展開された。

### 3 熊本航空機製作所への空襲と被害

- 1944年3月19日 米海軍艦載機攻撃 死傷者19人
- 同 5月13日 米海軍艦載機攻撃 死傷者11人
- 同 7月末から8月10日 沖縄からの米陸軍極東航空軍のB24・小型戦闘爆撃機による攻撃

※当地の空襲記録は集約中



- 1944年5月14日の熊本製作所工機工場等への米艦載機による攻撃 ガンカメラ映像：カラー 織田祐輔著『米軍カラーフィルム…』イカロス出版より
- 同年5月13日健軍飛行場への攻撃 ガンカメラ：白黒 福林徹氏 提供
- 敗戦後10月の熊本航空機製作所の工場群 吉村陽夫氏 提供

## ⑤-④ 自衛隊殉職者慰霊碑

15:10~15:15

……陸上自衛隊健軍駐屯地広報担当者様



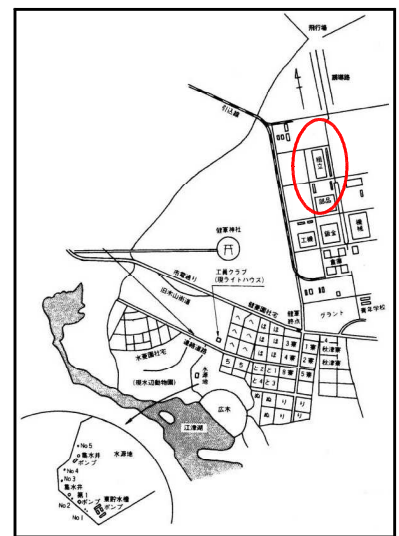
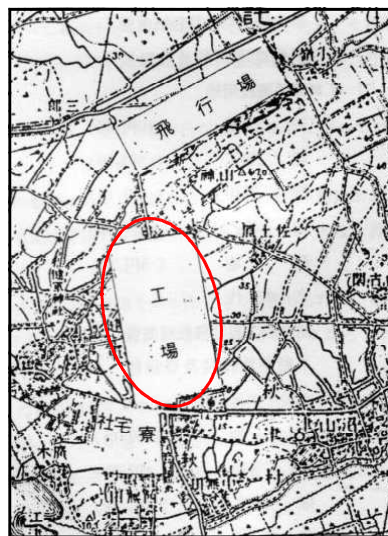
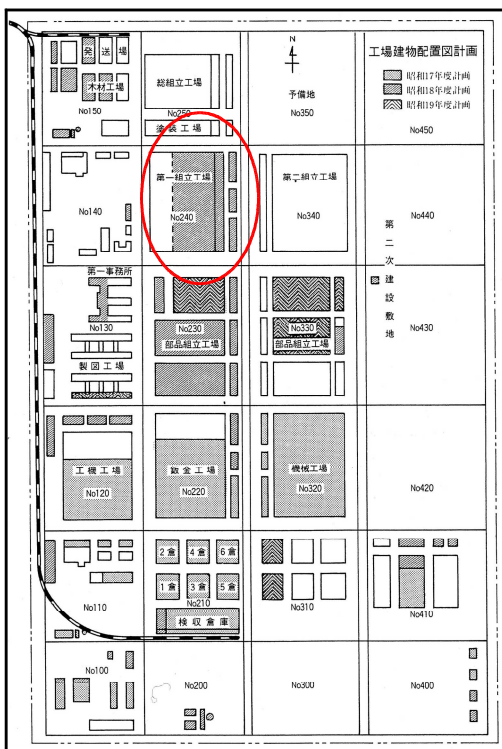
## Ⅲ まとめ

三菱重工業熊本航空機製作所の敷地は、約40万坪で、現在跡地には陸上自衛隊西部方面総監部をはじめ、熊本市市民病院、熊本市東区役所、九州運輸局熊本運輸支局、県立第二高校、熊本市立東町中学校等の公共施設・民間施設が立地する。また、健軍商店街地域一帯は、旧三菱社宅施設等である。

- ①本遺跡は熊本県・熊本市の近現代史を理解する上で、欠くことのできない遺跡で、学術上価値の高い遺跡・遺産である。戦争の実相を今に伝える「戦争遺跡・建物」である。
- ②三菱重工業熊本航空機製作所第一組立工場は、「熊本県内で唯一現存する建物」で「全国的にもほとんど残存例を見ない建物」、熊本で航空機生産を行っていたことを、現在に伝える最後の「歴史的建物」である。
- ③熊本市東部地域での土地区画の整備、市電の延伸、水道のインフラ整備、健軍町の街づくりや関連する熊本の航空機産業を伝える「象徴的建物」である。

### [参考文献]

- 岡野充俊『健軍三菱物語 熊本は東へ』岡野充俊 1989年
- 中西誠一『三菱熊航物語』中西誠一 2000年
- 『健軍三菱回顧史』三菱青年学校同窓会 2000年
- 『新熊本市史 近代Ⅲ』熊本市史編纂委員会 2003年
- 高谷和生他『熊本の近代化遺産 上巻』熊本産業遺産研究会・熊本まちなみトラスト 2014年
- 高谷和生『くまもとの戦争遺産』熊日出版 2020年



- 年度別工場建屋建設計画図 赤丸印が、現存する第一組立工場
- 健軍飛行場・三菱熊本航空機製作所・健軍街
- 健軍水源地及び設備配置図
- 昭和29年 現支処棟での駐屯地開隊式の様子 特車「M24軽戦車」



昭和29年旧三菱航空機製作所跡(現支処棟)で行われた健軍駐屯地開隊式の様様

## 熊本市東部の発展と戦争遺産（光と影）

昭和16年（1941年）まで、現在の健軍界限、東区役所、陸上自衛隊健軍駐屯地、日赤周辺は、いくつかの集落と広大な田畑が広がっていました。それが、次の出来事で一転しました。

### 1. 「三菱重工業（株）熊本航空機製作所」の建設

- 昭和16年（1941年）9月 当時の陸軍航空本部から「大型機月産50機」の増産命令。  
昭和17年（1942年）6月 熊本市健軍町・上益城郡秋津村・飽託郡廣畑村の広大な畑地に熊本航空機製作所が官設民営工場として建設。  
昭和20年（1945年）8月15日 終戦。重爆撃機「飛龍」46機生産で終わる。

約180万坪（594万㎡）にもわたる広大な土地を買収し、工場を建て、付属飛行場を造り、青年学校では技能工を養成し、従業員の福祉厚生施設（社宅・寮・病院など）を建て、道路や排水路を造り、鉄道を引込み、市電を敷き、4万人にもものぼる人員を集めた。

## 光と影

①三菱が健軍に来たことによって残されたものは、広大な工業用地と青年学校及び寮社宅などの住宅、水源地、病院であったが、それらに起因し波及効果を生み、今日の熊本市東部の発展に寄与。（工場・飛行場・青年学校・寮・社宅用地・水源地など）

①熊本航空機製作所⇒中央紡績（昭和53年閉鎖後は、健軍東小・東町中など  
⇒健軍駐屯地、⇒第二高校、⇒東警察署、・・・など

②青年学校⇒井関農機（昭和55年移転後は、東区役所など

③三菱病院（湖東地区）⇒熊本市民病院（令和元年東町へ移転）

④江津荘⇒県立図書館・近代文学館

◆健軍までの市電の延長 ◆健軍商店街の発展

◆三菱の水源地⇒健軍水源地・・・「元々は昭和17年に三菱重工業が航空機製作の工場と社員住宅に給水するために開発したものです。戦後、八景水谷水源地だけでは給水が追いつかず、新たな水源地を求めていた本市は、熊本財務局から借り受けて市の水源地とし、同25年に施設のすべてを250万円で買い取った歴史を持ちます。」（市政だより・平成22年1月号より）

○買収にあたって、数百人に及ぶ地主さんに「召集令状」が出された。市公会堂にて、知事・市長・地元選出議員参列のもとに説明会が開催された。陸軍航空本部は地主に対して「時局の重大性をよく認識され、『土地の赤紙』と思って賛同を得たい」と協力要請を行っている。説明会場周辺には憲兵・警察官が配置されており、耕作者等皆理解ある態度で協力し、異議を唱える者は一人もなく買収発表会は終了した。

○急増する労働力需要に対して国民皆労働体制・学徒動員（国民を強制動員）



### 連絡先

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 代表 高谷 和生  
□自宅／ 〒865-0061 熊本県玉名市立願寺126-5  
□Eメール takayanagi912@yahoo.co.jp  
戦争遺跡保存全国ネットワーク 事務局長 幅 国洋  
□事務局 〒381-1231 長野市松代町松代1440-20  
NPO法人 松代大本营平和祈念館内  
□Eメール kibonoie@nifty.com